



株式会社谷田部木材
谷田部 一友 氏

狛江市で、一番の 歴史がある材木店

取材にお伺いした日は、ちょうど地元のお祭りの前日でした！

谷田部社長は地域貢献に力を入れて、お祭りの準備もされていて、とてもお忙しそうなおところに邪魔させて頂きましたが、快く迎えてくださいました。

取材の後、お祭りの準備をしているところも覗かせて頂きました。翌日のお祭りの様子も写真を撮って送って下さり、楽しい雰囲気伝わってきます。



谷田部木材株式会社

★地域貢献

この場所で仕事をさせてもらっている！という気持ちを常に持ち、地域のバフとなれるよう努力します！

★笑顔と汗は無償です

どんな現場だろうとブーたれず、汗水流すことを惜しみません！

〒183-0026

東京都狛江市東和泉1-9-20

TEL：03-489-2961





谷田部さん

今日はわざわざありがとうございます。

村野広報委員長

こちらこそ、ちようどお祭りでお忙しいところにお邪魔して。

谷田部さん

そうなんです、この土日がちようどお祭りで、ちよっと（準備する方の）出入りがありますけど。

村野広報委員長

大丈夫です。今日はありがとうございます。

僕、このインタビュー今回はじめてなので、不慣れなところがありますけど、ご了承ください。

谷田部さん

そうですね、前は別の方がやられてて。会報誌で見ました。

村野広報委員長

今回は若手経営者の方にお話をお聞きしたいと思って、谷田部さんのところにお伺いさせてもらいました。

谷田部さん

ありがとうございます。

村野広報委員長

早速なんですけど、木材店ってどういうお仕事なんですか？

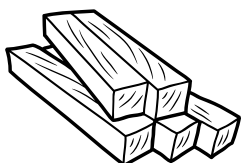
谷田部さん

材木店というのは、木材の配達配達がメインになるんです。いわゆる家を建てるときに工務屋さん、大工さんから注文を受けて建築材を卸しています。

よく木を切って売っているのかと聞かれるんですが、八百屋さんが野菜を作っていないのと同じで、仕入れたものを小売りして配送をするといった仕事です。

村野広報委員長

すぐくイメーシ沸きます。うちの会社もお酒の間屋なので。木材の加工などはしていないんですか？



谷田部さん

今は躯体そのものもプレカット（必要な形にあらはじめ木材を切断・加工すること）が主流でして大工さんが刻み加工をする事も少なくなりましたね。

うちも昔は需要があつて材木を割くといった加工作業なども行っていました、今は従業員もそれなりにい奮闘しております。

昔うちは、枝折しおりおという、桃とか梅などの枝に咲く花を地下の室で早く育てて出荷するという花屋だったそうです。

戦時中はこの辺りの防空壕としても使われていたらしいですけど、戦後にその花屋をやめて材木屋を始めたと聞いています。材木屋になつてから七〇年。僕は今、四代目です。





村野広報委員長

四代目なんです。でも花屋さんとしてはもっと前から。

谷田部さん

材木の前は明治からやっていたみたいです。

村野広報委員長

明治からずっと続いてるんですね。

谷田部さん

でも村野さんのところはもっと長いんじゃないですか？

前に何かで見たことがあるんですけど、村野義右衛門さんって、お父様ですか？

世襲制なんだ、と思って。

村野広報委員長

そうなんです。自分もその内に八代目、村野義右衛門になります。裁判所に行って手続きして。

(笑)

谷田部さん

裁判所で手続きまでするんですね。八代目、すごいなあ。

村野広報委員長

商売自体は江戸時代からしてるみたいですけど、酒屋は自分で三代目なので。

ちなみに、稼業はもともと継ぐ意思はあったんですか？

谷田部さん

継ぐうと考えていたわけではなかったですけど、やっぱり子供のころから環境というか、周りからハッキリ言われるわけではないけど、継ぐんだらうな、とは思っていました(笑)。

昔は大工さんが刻む為の下小屋がありまして、毎日のように一緒に三時のおやつ食べたり、キャチボールしてもらったり、おじさまたちと触れ合うのが好きだったのかも？笑

そして大学生卒業後、先代(父)もお世話になった目白の材木店で三年の修行の後に谷田部木材に入りました。

自分が継ぐとなったときに思ったことは、やっぱり地域との繋がりを大事にしたいなと。



谷田部さん

企業の根本として地域貢献はするものだとこの考えも強く持っております。

親父が昔、市議会議員とかもやっていたので、地域のことは関わっていくんだらうなと思っていましたし、地域貢献はしなきゃいけないなと思っていきます。

なので、それこそ今日も外でお祭りの準備をやっています。

それでは突然ですが、ここで僕からクイズです。うちの谷田部木材では他の材木店より無垢の木材がよく出ます。それはなぜでしょう？

村野広報委員長

お祭りは時期のものだし、この辺も神社とかあるけどそういうことではないですよ。ヒント下さい。



谷田部さん

ヒントは、調布に2か所、大倉にも大倉山にもあって、生谷にもあるんです。

村野広報委員長

大倉と生谷…何でしょう。

谷田部さん

実は撮影所があるんですよ。撮影所が多い！大道具屋さんが多いんですよ。大道具屋さんでセット組むのも、昔はバンバン切って（釘）打ってドンドン捨ててくれたけど、今はまた（釘）抜いて使いまわすことが多くなったんですけど、それでもやっぱり使う木は結構多いんですよ。

村野広報委員長

じゃあ撮影所に配達とかもあるんですか。

谷田部さん

それもありますね。最近は大道具やばっかりですけど、そこそスタジオでセット組んでいるところに持って行ったりとか、結構楽しかったんですけど。

村野広報委員長

じゃあ、もう撮影所とかも昔からのお付き合いで。

谷田部さん

そうですね。昔からの付き合いなので今は大道具やさんも結構枝分かれしてて、「あっちの方が安いんだけどな」なんて言いながらも、付き合い合ってくれています。それが他の材木店より木が出る理由かな。

今はうちよりすごい企業になっちゃいましたけど、昔うちのおじいちゃん和泉園さんのおじいちゃんが仲良くて、うちのおじいちゃんが和泉園さんにそういうスタジオを紹介してあげたんです。和泉園さんは貸し植木とかで、もう（働いてる人も）八〇人くらいいるし、ずいぶん大きな感じですけど。

村野広報委員長

おじい様同士が仲良しで、そういう縁もあったんですね。

村野広報委員長

ちなみに谷田部木材さんは、法人会に入られて活動している中で、参加して良かったなと思うことはありますか？

谷田部さん

それこそ会報誌のタイトルのように「なかま」が増えたことですね。支部とか他の研修会に参加したりとか、青年部会に入って租税教育でアニメを作ったりとか。その時初めて、法人会で租税教育とかしてるっていうのを知って、色々知らないことも学べて勉強になります。

村野広報委員長

やっぱり異業種交流とか、なかまを作るきっかけになりますよね。





「ここで谷田部さんに入電」

谷田部さん

すみません、取材中に。

村野広報委員長

いえいえ、お忙しいところに時間をいただいて。

谷田部さん

ちよつと仕事してる風に見えるすかね？（笑）



村野広報委員長

とても忙しくしていらっしゃるんで、それも紹介させていただきますね（笑）。

村野広報委員長

地域密着で、ちゃんと撮影所とかに強みがあっていいですね。

谷田部さん

そうですね、地域貢献はしていきたいと思っていますし、しなきゃいけない、と思っているので。明日がお祭りなので、いろいろとやることがいっぱい。

うちはこの辺りのお祭りで、昔から神酒所もやっていて、今は外でその準備もしています。そして夜はここで焼きそばとかフランクフルトとかを焼くんですよ。なので、村野さんも良かったらぜひ。

村野広報委員長

それが、今週末はうち（の地域）もお祭りなんですよ。

谷田部さん

そうなんですか。府中のどこなんですか？

村野広報委員長

白糸台なんですけど、うちの前の神社がそれこそ神酒所になっていて、逃げられない（笑）。もう、毎年この時期はプレッシャーで。ところで話は変わるんですけど、外から見えたんですけど、これは屋号？



谷田部さん

ああ、そうです。先代の時に材遊会っていう杜氏の材木の木工さんたちが作っている会があったんです。それでその会の方が作ってくれて。

「やまよ」って言って、人が入るよって意味らしいです。それは後付けっぽいなと思っていますんですけど（笑）。

それに先代の名前から和を取って付けてます。（先代…谷田部和夫氏）

村野広報委員長

プレゼントなんです。素敵ですね。



谷田部さん
そう、当時あまり目も見えてなかったお婆あちゃんがこれ書いてくれたんですよ。すぐくないですか？
「やまよ」って少しずつらして書いてあるんです。
村野広報委員長
良いですね、しっかりした木ですし、すごくきれいな状態です。
谷田部さん
もう三〇年以上は経つのに綺麗ですよね。



谷田部さん
じゃあ、この後少し外を見てみますか？
お祭りの準備もしてるので、ご案内します。
村野広報委員長
ありがとうございます。



谷田部さん
こんな感じで、地域のことも力を入れてますので、そんな感じでお願います。
村野広報委員長
地域密着、アピールしますね！
じゃあ今日は本当に、お忙しいところありがとうございました。



（翌日のお祭りの様子）